

STOP 熱中症

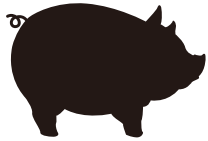
熱中症を予防するために… 普段から気をつけて おきたい10のこと

☀️☀️☀️☀️☀️ は、各項目の危険度を表しています。



短頭種である
(フレンチ・ブルドッグ、バグ、シー・ズー、
チワワ、ペキニーズなど)

鼻ぺチャちゃんは、暑さに弱い！
短頭種のワンちゃんは、呼吸による体熱の放散が
上手にできず、熱を溜め込みやすい犬種です。
熱中症のリスクが高いため、温度管理は特に注意
しましょう。



動物病院の先生に、ダイエットを
指示されたことがある

夏に向けて、ダイエットしよう。
体を厚く覆う脂肪は、体熱の放散を妨げます。
また、気道が狭くなり呼吸状態を悪化させます。
家族みんなで、健康的なダイエット！してませんか？



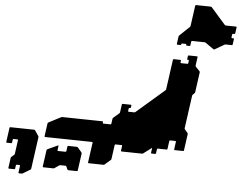
心臓病や、呼吸器病、脱水を起こ
しやすい病気（腎不全や糖尿病）
などの病気がある

病気があると、リスクは大。
病気があると、血液の循環が悪くなり、水分不足に
なりがちです。効率的に熱を下げられなくなり、
それほど気温が高くなかったとしても、熱中症に
直結する場合があります。



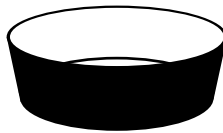
ミニチュア・ダックスフンドのよう
に足が短く、地面から体が近い

ワンちゃんは、地面と体が近い。
真夏のアスファルトから、数10cmしか離れていな
いワンちゃんの体。照りかえして体感温度は想像
以上に高くなります。日中の散歩は避けたい方がよい
でしょう。



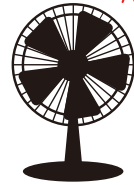
暑い地域に引っ越した、または帰省
などで暑い地域へ旅行の予定がある

気温差の他、湿度も熱中症と関係が。
涼しい地域に住んでいるワンちゃんが暑い地方に
来ると、体が慣れていないため強い気温ストレスを
感じます。それほど暑くなくても熱中症が発生する
のは、そのためです。



夏場気づくと、飲み水が
無くなっていることがある

水分不足は、黄色信号！
水分不足により血流が悪くなり、熱中症になりや
すくなります。お出かけする際はもちろん、家に
いるときもこまめに水分補給しましょう。



屋内飼育で、冷房や扇風機をかけ
ずにお留守番させることがある

電気代より大切なもの。
家の中で窓を開けていたとしても安心してはいけ
ません。真夏の室内は、ビニールハウスのようにと
ても暑くなります。長時間様子が見られない場合、
お部屋の気温管理はしっかりと。



早朝や、晩以外にも散歩する
ことがある

お散歩は、涼しい時間帯に。
日が落ちていたとしても、夕方早い時間のお散歩
は安心できません。アスファルトは貯熱性が高く、
長時間熱を放散し続けるため、お散歩は早朝か、夜
にだけかきましょう。



お出かけ時に、ワンちゃんを車に
乗せていくことがある

エアコンありでも車内は40℃近くに！
車内放置は最も危険です。外気温が23℃のとき、
車内温度は49℃に、ダッシュボードの上は71℃
にもなるといわれています。エアコン使用時でも、
40℃近くにまで上昇し、危険温度になります。



夏場にドッグランなどで、たくさん
運動させることがある

運動の前と後にはしっかりケアを！
運動によって体温は上昇します。しっかりお水を
飲ませたり、運動後は水浴びさせてあげることで、
熱中症のリスクはぐんと下がります。